

平成 25 年度土木学会スタディーツアーグラント報告

土木学会は創立 75 周年の記念事業で集められた学術交流基金を活用し、スタディーツアーグラントとして毎年海外協定学会の推薦を受けた土木を学ぶ優秀な学生や若手技術者を日本に招聘しています。今年度は Mr. Pham Thanh Tung (ベトナム)、Mr. Pich Chanvichet (カンボジア)、Mr. Ali Bin Sohail (パキスタン) の 3 名の学生 (学部 2~4 年生) を 8 月 29 日から 9 月 7 日までの 10 日間日本に招聘しました。滞在中は、施工現場や研究所、大学、東北被災地を訪問し、最後の 3 日間は土木学会全国大会に参加するなど、多忙なスケジュールではありましたが、3 名とも終始目をいきいきとさせ、どの行事にも大変積極的に参加していました。



学術交流基金管理委員会
委員 高木泰士



NEXCO 東日本 新葛飾橋工事視察

施工現場としては、NEXCO 東日本発注の橋梁および道路の現場を見学し、日本の技術、品質管理のレベルに感嘆するとともに、母国にどのように生かしていくかを真剣に考えている様子でした。土木研究所では耐震や水理実験、また鹿島研究所では耐震、省エネ、新素材などの実験施設や最新の技術に接するとともに、基礎研究の重要性を実感したようでした。また、東京工業大学では日本人学生・留学生と交流を行い、留学や就職など自身の将来を語り合うなど親交を深める機会となりました。

さらに今回は、東日本大震災による被災や復興の状況を視察するツアーを実施しました。母国では津波や地震はほとんど問題視されていないようですが、視察先の一つであった女川でビルが転倒・倒壊している様子を目の当たりにしたときは、言葉を失っている様子でした。ある学生は、この視察に加えて、日本滞在中にたまたま震度 3 の地震を経験したということもあり、帰国時には防災の重要性を強く認識するようになったと感想を述べていました。



宮城・石巻 津波被災現場視察

最後の 3 日間は、日本大学で開催された全国大会に参加し、サマーシンポジウムを聴講するとともに、多くのラウンドテーブル関係者や海外分会関係者と交流を持ちました。また、国際センター主催の若手ワークショップにも参加し、多くの留学生と活発な議論を交わし、その夜の交流会では日本への留学について色々と情報収集を行っていたようです。

彼らがゆくゆくは母国のインフラ整備を牽引する人材に成長していく中で、今回のツアーが土木技術者としての視野を広げ、また将来日本と彼らの国の間の交流に少しでも役に立つことができれば望外の喜びです。ここにツアーの無事終了を報告するとともに、実施に際して多大な協力を頂いた関係各位に感謝の意を表する次第です。